

声明「ロシア軍のウクライナへの侵攻を非難する」

去る2月24日、ロシアが開始したウクライナへの攻撃は、主権国家に対する明白な侵略であり、断じて容認することができない。のみならず、今後もロシア軍の侵攻が続けられる場合、ウクライナ・ロシア双方に想像を絶する犠牲者が出ることは確実であり、第二次世界大戦時に旧ソ連で生じた惨劇が繰り返される恐れすらある。

戦争は人々に憎悪と怨念をもたらすのみで、決して問題の解決につながるものではない。ロシア政府は、一刻も早くウクライナにおけるすべての軍事行動を停止して兵力を撤退させ、平和的に解決をはかるプロセスに立ち戻るべきである。

2022年3月4日

一般財団法人歴史科学協議会

代表理事 近藤 成一

同 高岡 裕之